

リニア中央新幹線工事における 飯田市内での要対策土の活用について

リニア推進課

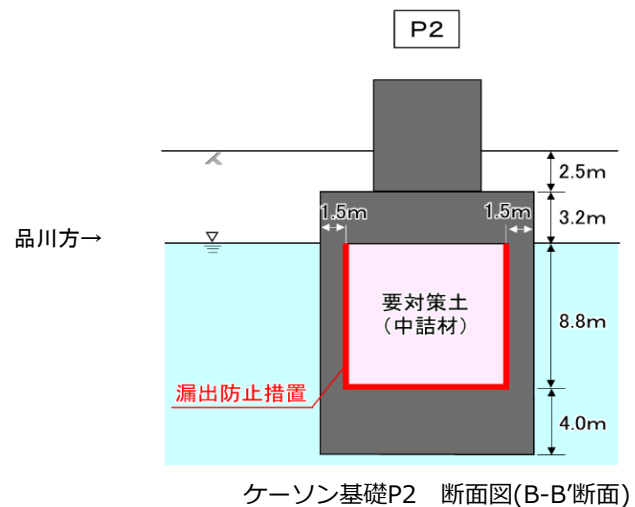
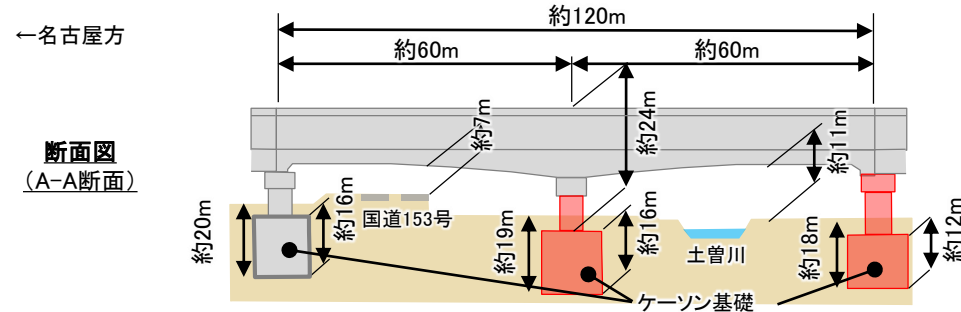
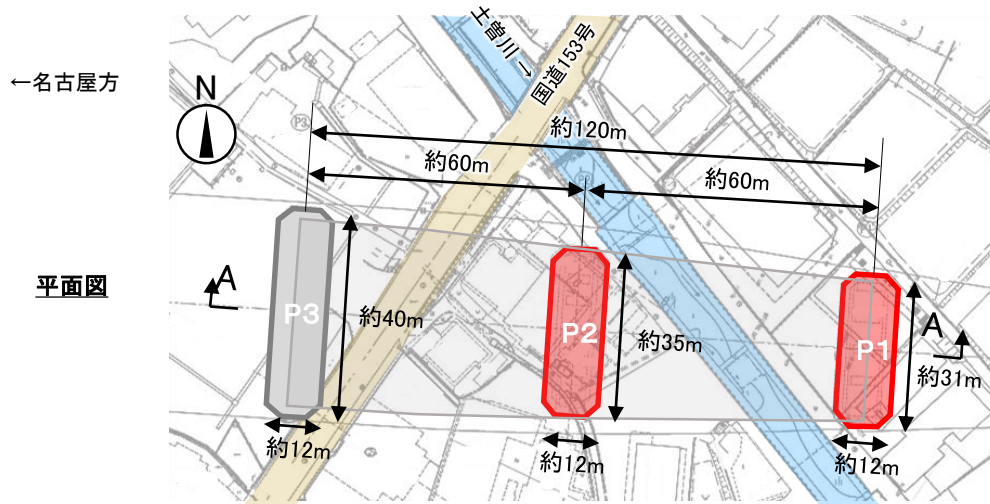
- **1.土曾川橋りょうへの要対策士の活用について**
- 2.飯田保守基地への要対策士の活用について

1.土曾川橋りょうへの要対策土の活用

【今年度(R8)の土曾川橋りょうでの活用状況について】

○今年度はP2橋脚ケーソン基礎内へ活用します

- ・ 運搬期間：令和8年5月18日～6月末までの予定
- ・ 活用土量(運搬土量)：約2,000m³
- ・ 運搬台数：1日あたり片道約25台程度



1.土曾川橋りょうへの要対策土の活用

【河川水（水質）調査について】

○ P 2 橋脚でも去年のP1橋脚と同様に水質調査を実施しています。

- ・ 土曾川橋りょう基礎の中詰め材として要対策土を活用することに伴い、下図の調査地点で、土曾川の水質調査を実施します。
- ・ 県助言等では、工事施工ヤードの河川下流側のみではなく、上流側においても同時に水質の調査を行い、工事の影響を的確に把握するようにとの意見がありました。この意見を踏まえ、河川上流側に調査地点を追加の上、実施します。
- ・ 上記の水質調査に加え、要対策土取扱中は工事管理の一環として、ヒ素を対象とした水質確認を土曾川の下流側で週1回実施します。
(結果については、上郷・座光寺自治振興センターにお伝えします。)

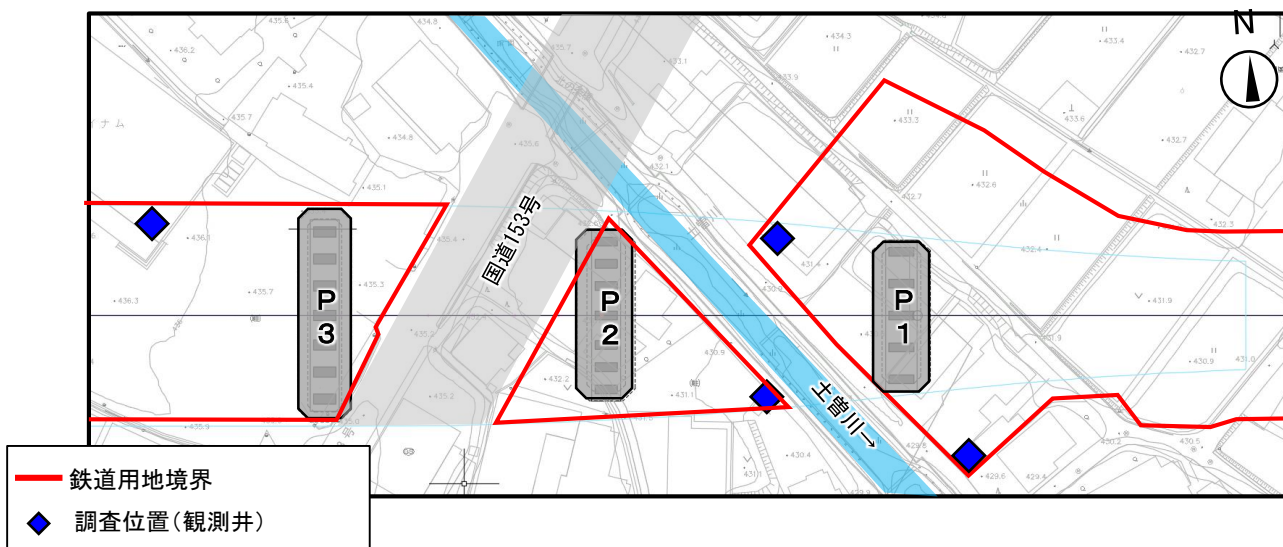
調査項目		調査頻度
<p>★ 【要対策土】 ★ 水質（河川水）</p>	浮遊物質（SS）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要対策土の取扱前：1回 ・ 要対策土の取扱中：年1回（低水期に実施）
	水温 水素イオン濃度（pH）、 自然由来の重金属等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要対策土の取扱前：月1回 ・ 要対策土の取扱中：月1回 ・ 要対策土の取扱後：月1回*



1.土曾川橋りょうへの要対策土の活用

【継続的な水質調査について】

- ・土曾川橋りょう基礎の中詰め材として要対策土を活用することに伴い、
下図の地点で、地下水の水質調査を実施します。
- ・地下水の水質調査は、要対策土取扱後も継続して実施します。



調査項目		調査頻度
◆ 【要対策土】 水資源 (地下水の水質)	水素イオン濃度 (pH)、水温、水位、 電気伝導率、 自然由来の重金属等	<ul style="list-style-type: none"> ・要対策土の取扱前：月1回 ・要対策土の取扱中：月1回 ・要対策土の取扱後：月1回※

※調査期間・頻度・周知方法・調査方法等は、地元及び自治体と相談します。

・P2橋脚施工時の水質調査はP1橋脚施工時と同様の計画とします。

1.土曾川橋りょうへの要対策土の活用

【水質調査結果の丁寧な説明について】

- ・橋脚基礎部付近の観測井での水質調査結果は、現在、施工会社から毎月発行している「工事だより」でお知らせしています。なお、工事だよりは北条振興センター、丹保研修センター等の土曾川橋りょう周辺地区の集会所に常時掲示します。
- ・現在、「土曾川上下流」「橋脚基礎部付近の観測井（4箇所）」にて、要対策土活用前の水質調査を実施していますが、基準値未満であることを確認しています。
- ・今後も要対策土に係る地下水や河川水の調査結果については、適宜公表するとともに、説明会等を通じて、皆さまへ丁寧に説明してまいります。

土曾川橋りょうの地下水調査（JR東海）

土曾川橋りょうでの要対策土の活用に伴い実施している、土曾川橋りょう東側橋脚周辺の地下水調査（重金属）は、下表のとおり、水質に関する全ての項目で基準値以下でした。

令和7年2月の調査結果（mg/L）

調査項目	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
基準値	≤0.003	≤0.02	≤0.0005	≤0.01	≤0.01	≤0.01	≤0.8	≤1
調査結果	0.0003 未満	0.01 未満	0.0005 未満	0.002 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.08 未満	0.02 未満

※基準値は「環境省 地下水の水質汚濁に係る環境基準について 別表」に基づく。

調査結果の「～未満」は、測定できる最低値未満であることを示す。

お問い合わせ先： 環境保全事務所（長野） 0265-52-6511

「長野県駅（仮称）新設 工事だより」での掲載内容

- ・P2橋脚施工時も引き続き水質調査結果の丁寧な説明をしてまいります。

1.土曾川橋りょうへの要対策土の活用

【要対策土取扱中の水質調査結果について】

○毎週の水質調査結果は、下記のとおり基準値以下でした。

中央新幹線長野県駅(仮称)新設工事に伴う
土曾川橋りょうへの要対策土活用に関する河川水質の確認結果

調査日	項目名	単位	環境基準値※1	測定方法	測定結果※3 (速報：2026.5.20)
2026.5.18	砒素	mg/L	0.01	ICP質量分析法※2	0.001未満

※1 環境省「人の健康の保護に関する環境基準」(水質)、「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(水資源)に基づく。

※2 「工業用水・工場排水試験方法 JIS規格(JIS K 0102-3)」に基づく。

※3 測定結果が「0.001未満」の場合、測定できる最低値未満であることを示す。

中央新幹線長野県駅(仮称)新設工事に伴う
土曾川橋りょうへの要対策土活用に関する河川水質の確認結果

調査日	項目名	単位	環境基準値※1	測定方法	測定結果※3 (速報：2026.5.28)
2026.5.26	砒素	mg/L	0.01	ICP質量分析法※2	0.001未満

※1 環境省「人の健康の保護に関する環境基準」(水質)、「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(水資源)に基づく。

※2 「工業用水・工場排水試験方法 JIS規格(JIS K 0102-3)」に基づく。

※3 測定結果が「0.001未満」の場合、測定できる最低値未満であることを示す。

事業者：東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線長野工事事務所
施工者：清水建設株式会社 中央新幹線長野県駅建設所

中央新幹線長野県駅(仮称)新設工事に伴う
土曾川橋りょうへの要対策土活用に関する河川水質の確認結果

調査日	項目名	単位	環境基準値※1	測定方法	測定結果※3 (速報：2026.6.4)
2026.6.2	砒素	mg/L	0.01	ICP質量分析法※2	0.001未満

※1 環境省「人の健康の保護に関する環境基準」(水質)、「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(水資源)に基づく。

※2 「工業用水・工場排水試験方法 JIS規格(JIS K 0102-3)」に基づく。

※3 測定結果が「0.001未満」の場合、測定できる最低値未満であることを示す。

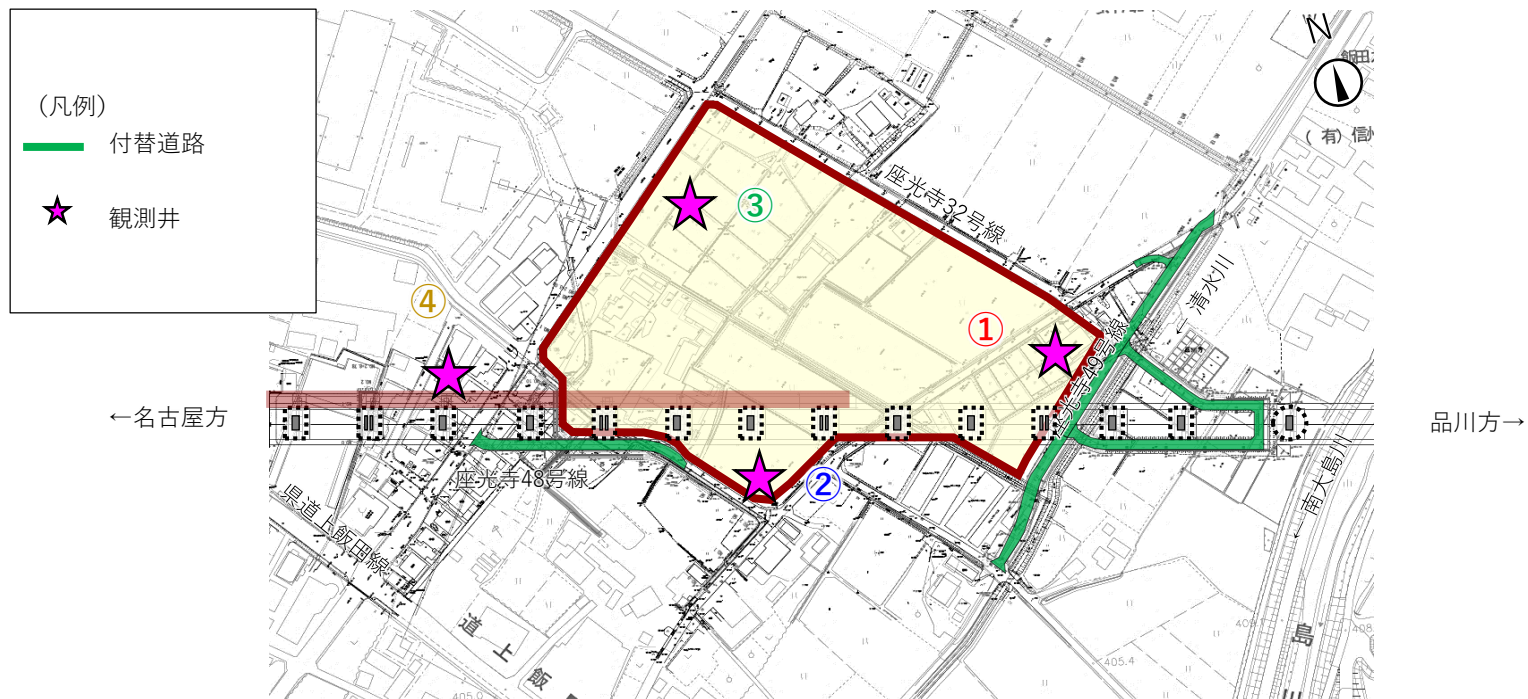
事業者：東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線長野工事事務所
施工者：清水建設株式会社 中央新幹線長野県駅建設所

- 1.土曾川橋りょうへの要対策士の活用について
- 2.飯田保守基地への要対策士の活用について

2.飯田保守基地への要対策土の活用

【地下水の観測調査について】

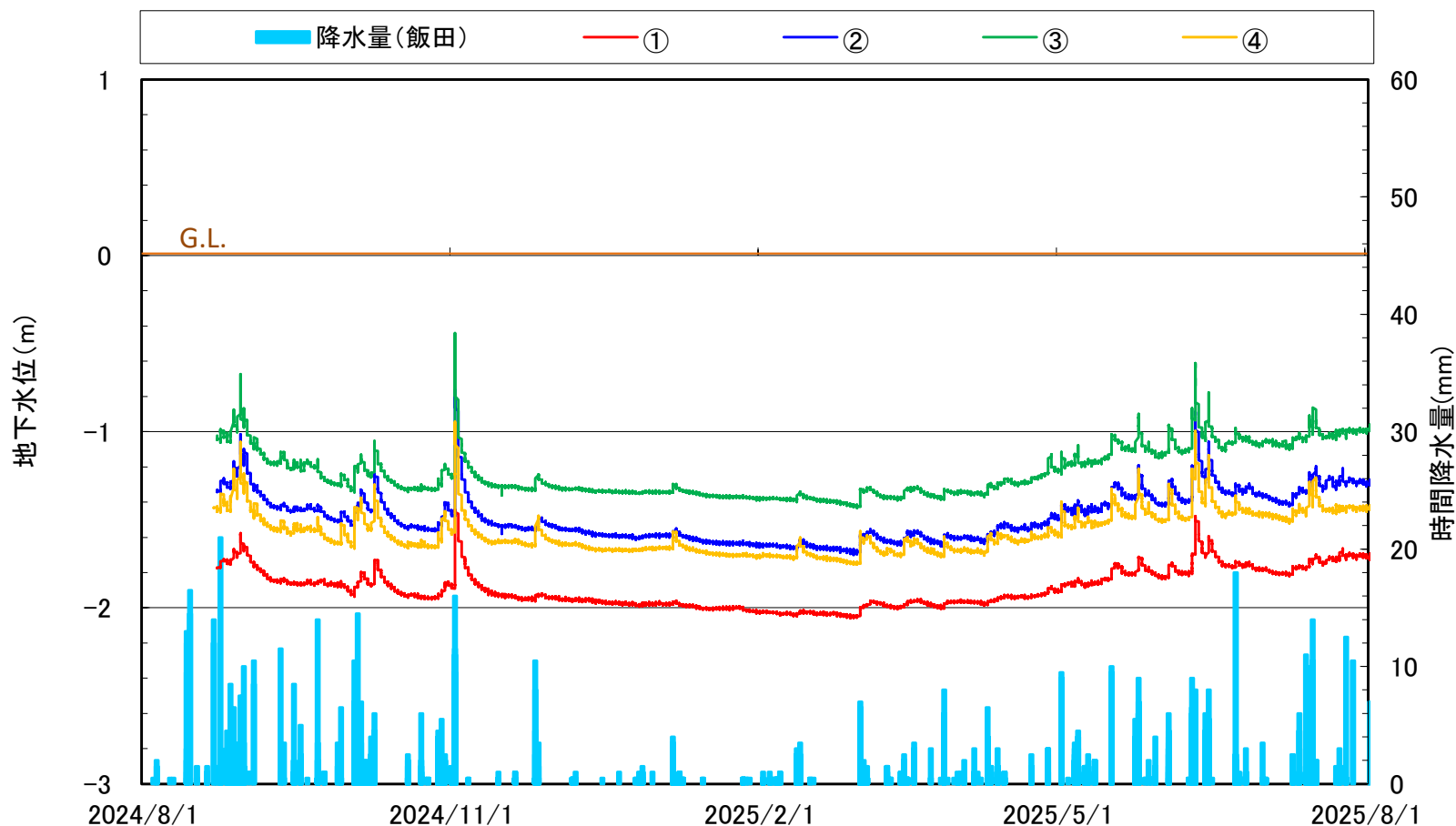
- ・保守基地は、面積約3.4haで、約90,000m³の盛土を計画しています。
- ・盛土材として、座光寺地区や駅など高架橋工事による発生土及び山岳トンネルの発生土を用いることを検討しており、山岳トンネルの発生土活用に伴い、「要対策土」の活用を検討するための地下水調査を実施してまいりました。
- ・下図に示す4カ所に直径約10cm、深さ約8～13mの井戸（観測井）を掘り、地下水の水位、水質、流向を令和6年8月から令和7年8月までの1年間継続して測定しました。



2.飯田保守基地への要対策土の活用

【地下水の観測調査結果（地下水位）について】

- ・年間を通して地下水位が地表面より約1m程度下の位置であることが判明



2.飯田保守基地への要対策土の活用

【地下水の観測調査結果（水質）について】

- ・ 4地点の水質調査（自然由来の重金属等）を実施しました。
- ・ 測定結果は下表のとおり、いずれの調査地点、調査日においても水質に関する全ての項目で基準値以下でした。

観測地点①～④の観測結果

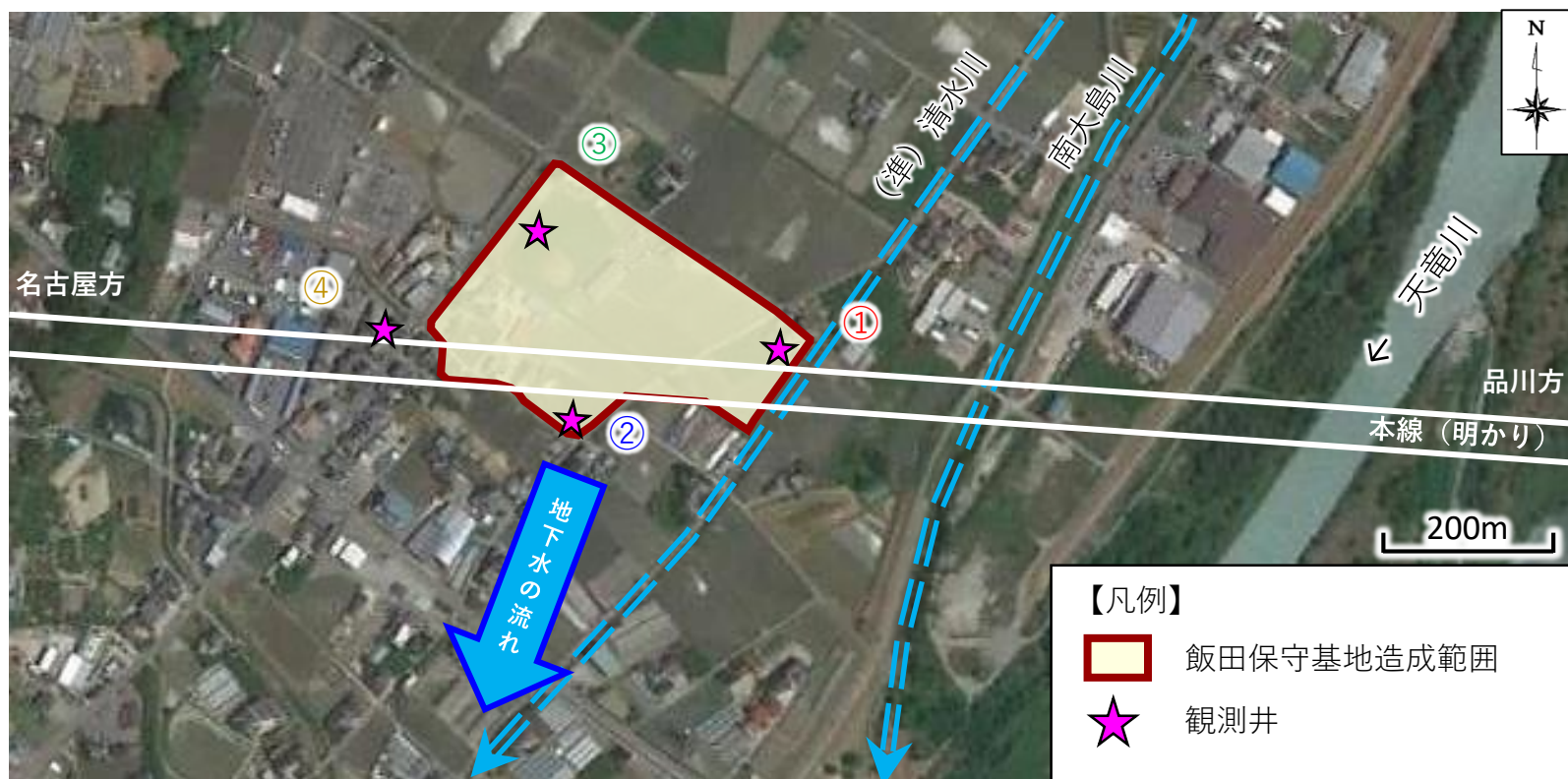
調査項目	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
基準値 (mg/L)	≦0.003	≦0.02	≦0.0005	≦0.01	≦0.01	≦0.01	≦0.8	≦1
2024. 8. 23	0.0003 未満	0.01 未満	0.0005 未満	0.002 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.08 未満	0.02 未満
2024. 11. 14	0.0003 未満	0.01 未満	0.0005 未満	0.002 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.08 未満	0.02 未満
2025. 2. 19	0.0003 未満	0.01 未満	0.0005 未満	0.002 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.08 未満	0.02 未満
2025. 5. 19	0.0003 未満	0.01 未満	0.0005 未満	0.002 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.08 未満	0.02 未満

※基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」に基づく。
調査結果の「～未満」は、測定できる最低値未満であることを示す。

2.飯田保守基地への要対策土の活用

【地下水の観測調査結果（流向）について】

- ・ 4地点の地下水位や流向の調査結果を踏まえると、地下水は天竜川と平行に南方面に向かって流れていると考えられます。



2.飯田保守基地への要対策土の活用

【検討結果について】

- 地下水位、水質、流向の調査結果を踏まえ、飯田保守基地への要対策土の活用について検討しましたが、造成面から地下水面までの深さや設備配置計画を考慮すると、活用可能箇所が限られることから、飯田保守基地に要対策土を活用しないこととします。